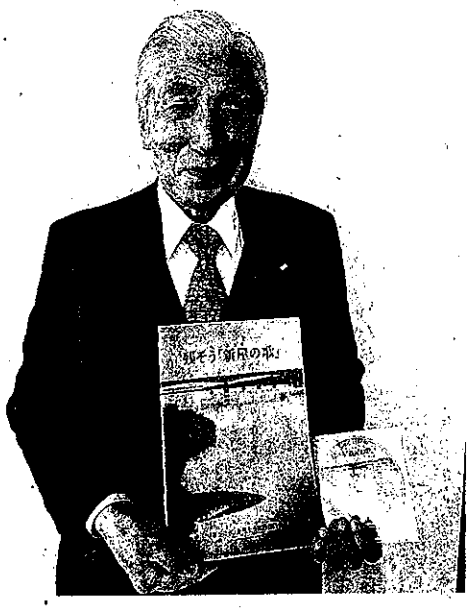
2024.4.10
秋田さきがけ

「新屋の歌」を後世に

四季描写の音頭、部活動の応援…

住民ら冊子発行、DVDも

秋田市新屋の地域住民らが郷土の歌を後世に残すため、冊子「残そう『新屋の歌』」を発行した。地区内にある学校の校歌や、祭りで歌われていた曲などを歌詞と楽譜付きでまとめた。住民の歌声を収録したDVDも作成し、市内の図書館や学校に配布している。



新屋地区に伝わる歌を冊子にまとめた赤沼さん

冊子とDVDには21曲を収録。1928年に発表され長年歌われてきたとされる「新屋町の歌」や、新屋の四季を描写した「新屋音頭」、部活動の応援歌などバラエティーに富んでいる。歌の歴史に関する説明や関連の写真も添えている。

新屋振興会会長の赤沼侃さん(78)らでつくる実行委員会が作成を企画。新屋で生まれ育った赤沼さんは10年ほど前、地元に古くから伝わる歌を知らない住民が多いことに気付き、形にして残す方法を考えるようになった。

その後、首都圏在住の新屋出身者でつくる「新屋郷土会」に参加した際、アコーディオン演奏が趣味の類地晋朗さん(85)＝千葉県＝に出会い、2017年ごろに協力を依頼した。

収録曲の中には今では歌われなくなった曲、楽譜が残っていなかった曲も。これらは赤沼さんが記憶を頼りに歌って録音し、音源を受け取った類地さんが譜面に書き起こす作業を繰り返すことで再現した。

新型コロナウイルスの感染拡大でなかなか進まなかった時期もあったが、地元小中学校の教職員や子どもたちの協力も得て収録などを進め、3月末に完成した。

類地さんは「新屋地区にある歌をせっかくだから残したいという思いがあった」と話す。赤沼さんは「世代を超えて共通の歌を持つことは大切。歌から歴史を学ぶこともできる。想像以上に立派なものができてよかった」と語った。

（佐々木優）

学生、元気に接客

働くことの大変さ学ぶ

秋田市

蜜飴林檎を使ったリンゴジュースを秋田市内のキッチンカーで販売する「蜜飴林檎秋田店」が6日、7～12歳の小中学生を対象とした職業体験イベントを開催した。

参加した小学生は、厨房にオーダーを伝える係などの役割を分担。会計係は客からカットの有無といったオーダー内容を聞き取ったり、お釣りを手渡したりした。続々と来店する客に「ありがとうございました」と話した。

同店の運営会社ディベンテラ（秋田市中通）の佐藤修兵社長(31)は「子どもたちに仕事が楽しいと感じてほしいと思い企画した。この職業体験を通して『秋田で将来働きたい』や『こういう仕事がしたい』などと考えるきっかけになってほしい。今後も販売体験やリンゴの収穫体験などを定期的に開催したい」と話した。

（神谷紗耶加）

県警交通機動隊

白バイ一斉に出動

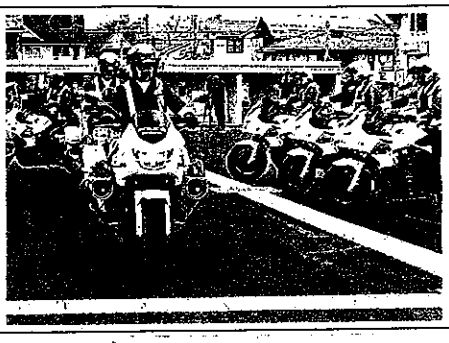
今季のパトロール開始

県警交通機動隊の白バイ出動式が秋田市新屋の同隊庁舎前で開かれ、全13台が一斉に今季のパトロールに向かった。

山本哲也本部長が車両を目視で点検した後、「間もなく全国交通安全運動が始まる。白バイ特有の機動力と柔軟性を生かして、交通指導や取り締まりの最前線で成果を上げてほしい」と訓示。隊員はエンジン音を響かせ、さっそうと出発していった。

交通機動隊は例年、4～11月に白バイによるパトロールを実施。積雪期の12～3月は車で巡回する。交通量の多い幹線道路を主な対象としている。

廣嶋寿副隊長は「事故の件



今季初の白バイパトロールに出動した交通機動隊員

イベント情報

地域情報

【秋田市】

▼早春の山野草展＝13、14日午前10時半～午後4時、遊学舎。春の山野草と寄せ植えなど約100点を展示。無料。秋田野生ランの会・小林さん☎080・1828・0430

なく、硬い岩から削り出す機材を新たに購入した。人手を補おうとアルバイトを募ると、化石を初めて扱う人ばかりが集まった。

当初は細部を削り出す前の全体

みを持ってほしいと「ワカヤマソウリュウ」の通称も付けた。小原さんは「新発見で多くの人が興味を持ってくれれば幸せだ」と語った。

開催している。

母親の実家が奈良県葛城市にあり、家族で参加した広島県福山市の小学1年池田響葉さんは「ひな人形がうまく流れて楽しかった」

列